

大学生が利用したくなるポイントプログラムの提案に関する研究

学生氏名 古川 丈太郎

指導教員 教員氏名 土屋 哲

研究背景

近年、キャッシュレス決済の普及により、さまざまなポイントプログラムが利用されている。特に大学生は、キャッシュレス決済を日常的に利用しており、ポイントを貯めたり使ったりする機会が多い。一方で、ポイント制度が複雑に感じ、十分に活用できていない学生も少なくない。これまでの研究では、企業の効果や制度の仕組みに注目したのが多く、大学生がどのようなポイントプログラムを利用したいと感じるのかは、十分に明らかにされていない。

研究目的

本研究の目的は、大学生のポイントプログラムの利用実態や重視していることを明らかにし、どのようなポイントプログラムが利用したいと感じられているのかを分析することである。

研究方法

本研究では、オンラインアンケート調査によって得られたデータを用いて分析を行った。調査はインテージのマイティモニターを通じて大学生を対象に実施し、ポイントの利用状況や重視点、価値観などを把握した。分析には単純集計およびクロス集計を用いた。

分析結果

分析の結果、大学生の多くは共通ポイントやクレジットカード、電子マネーなど、日常的に使いやすいポイントを中心に貯めていることが分かった。ポイント利用に対する満足度は全体的に高く、特に支払い時にそのまま使えるポイントほど評価が高かった。一方で、ポイントを貯めていない学生は、制度の分かりにくさや手間を理由として挙げていた。また、経済的なメリットや利便性が重視され、支出分野によってポイントへの期待に違いがあることが明らかとなった。

考察・結論

以上の結果から、大学生が利用したくなるポイントプログラムは、分かりやすく使いやすい仕組みであることが重要であると考えられる。また、すべての学生に同じポイント施策を提供するのではなく、価値観や利用目的に応じた工夫を行うことで、より利用意識が高まる可能性が示唆された。本研究を通して、大学生の視点からポイントプログラムを見直すことの重要性が明らかになった。